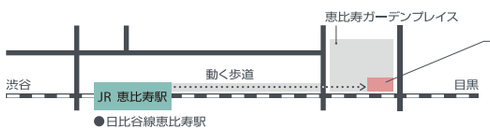
SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

2010	3階展示室	2階展示室	地下1階展示室	1階ホール
6	 侍と私 ーポートレイトが語る初期写真ー 5月15日(土)〜7月25日(日)	 グラーツ、2001 古屋誠一 メモワール. 「愛の復讐、共に離れて…」 5月15日(土)〜7月19日(月・祝)	 ピエトロ・マストゥルツォ／イタリア 世界報道写真展2010 6月12日(土)〜8月8日(日)	 「ハーツ・アンド・マインズ／ベトナム戦争の真実」 「ウィンター・ソルジャー／ベトナム帰還兵の告白」 6月19日(土)〜7月16日(金)
7			「おんな」 ー立ち止まらない女性たちー 日本写真家協会創立60周年記念展 8月14日(土)〜8月29日(日)	
8	 私を見て! ーヌードのポートレイトー 7月31日(土)〜10月3日(日)	 ラビリンス オノデラユキ 写真の迷宮へ 7月27日(火)〜9月26日(日)	 黒澤明生誕100年記念画コンテ展 映画に捧ぐ 9月4日(土)〜10月11日(月・祝)	 ガイアシンフォニー No.7 「地球交響曲第七番」 7月17日(土)〜8月27日(金)
9				
10	 20世紀の人間像 ーすべての写真はポートレイトである— 10月9日(土)〜12月5日(日)	 ラヴズ・ボディ 生と性を巡る表現 10月2日(土)〜12月5日(日)	第21回JPA展 10月16日(土)〜10月31日(日)	
11			写真新世紀東京展2010 11月6日(土)〜11月28日(日)	
12	スナップショットの系譜(仮称) 12月11日(土)〜2月6日(日)	新進作家展vol.9 ニュー・スナップショット 〜輝きの瞬間(仮称) 12月11日(土)〜2月6日(日)	第11回上野彦馬賞 12月4日(土)〜12月12日(日)	
2011 1			映像をめぐる冒険vol.3 3Dヴィジョンズ リアリティへの欲望(仮称) 12月21日(火)〜2月13日(日)	

※スケジュール・展覧会タイトル等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

ご利用案内	●休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合、その翌日) 年末年始(2010年12月27日〜2011年1月1日)、2011年1月4日、2011年2月14日〜2月17日および2月28日〜3月4日 ●開館時間：10:00〜18:00(木・金は20:00まで)入館は閉館の30分前まで
割引チケットの販売	お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。



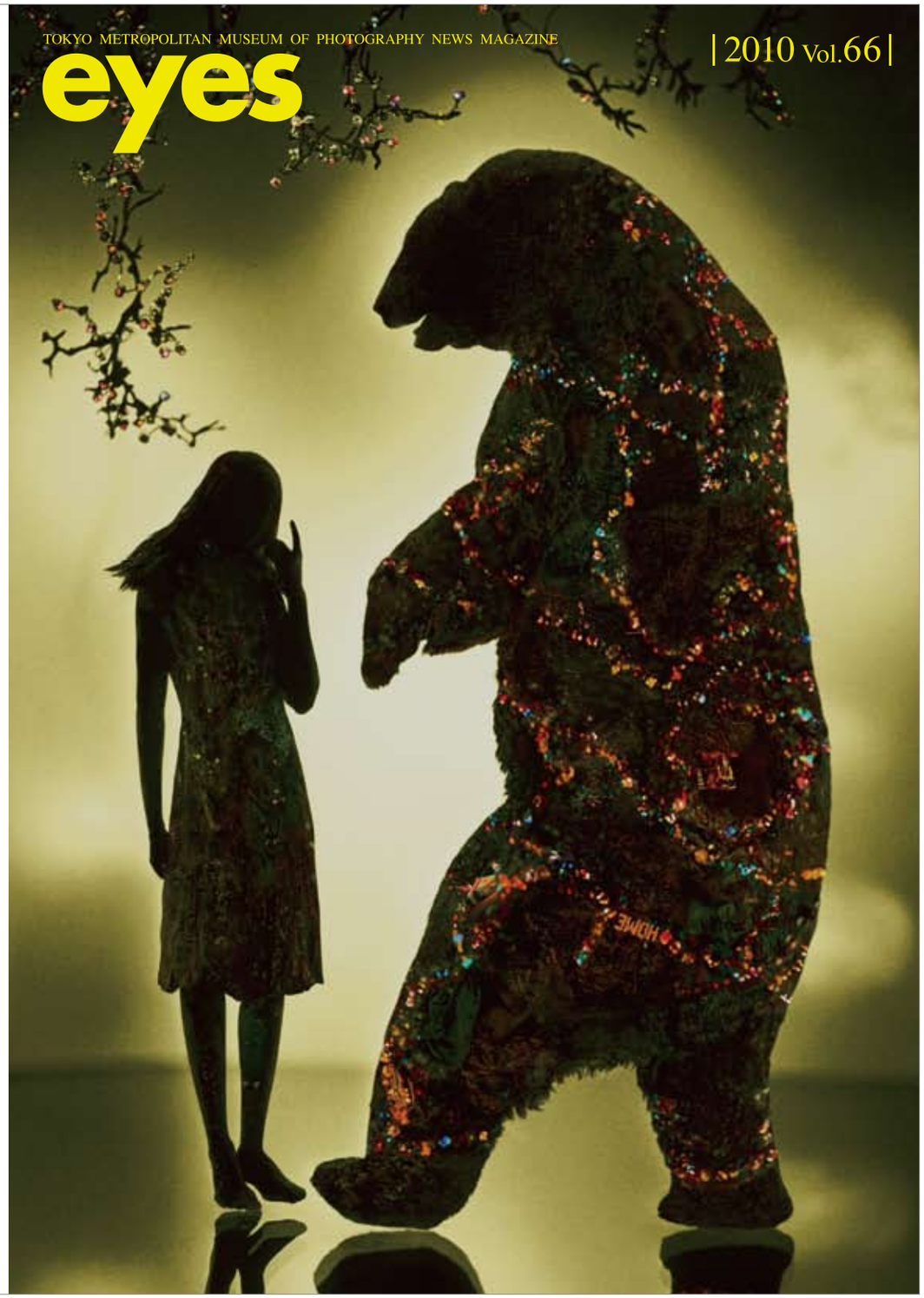
東京都写真美術館
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099
http://www.syabi.com

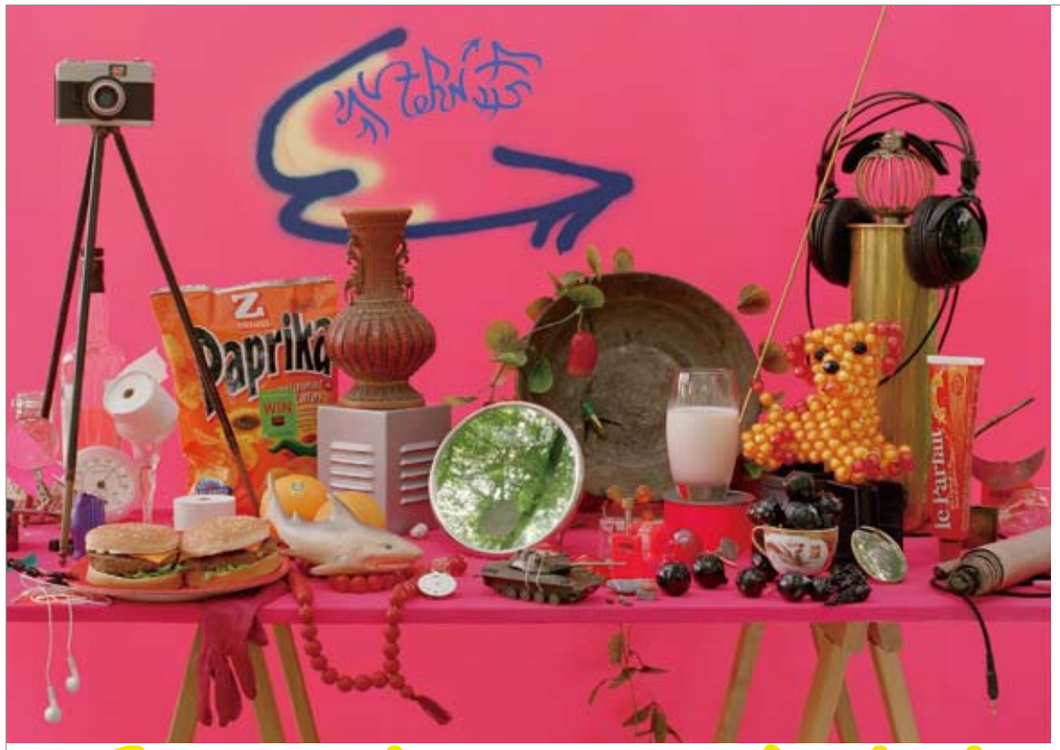
携帯サイトはこちら

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。

東京都写真美術館ニュース「アイズ'10」66号●発行日：2010年6月11日／企画・編集：東京都写真美術館事業企画課 普及係
●印刷・製本：JTB印刷株式会社●発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2010●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。





Topics

12 Speed 2008

Onodera Yuki

INTO THE LABYRINTH OF PHOTOGRAPHY

オノデラユキ 写真の迷宮（ラビリンス）へ

パリを拠点に世界的な活動を続けるオノデラユキ。その魅力は、写真の一般的概念に収まりきれない、固定観念を覆すような視覚世界にあります。独自の視点とアイディアで、写真の本質に挑戦するオノデラさんにお話をうかがいました。

「Roma-Roma」No,1 2004

ーオノデラさんにとって、写真の魅力を感じた印象的な出来事を教えてください。

写真の面白さの本質はメイン・ストリート的なところではなくて、言ってしまえば裏道的なところにあります。

私は子供の頃、父が作り上げた写真アルバムを見るよりも、そのアルバムに貼られずに見捨てられた雑多なプリントが入ったブリキのお菓子箱の中身を覗くほうが好きで、時々開けては見て楽しんでいました。白黒、カラー、大小、様々な時々の被写体の写真がバラバラに箱の中に詰まっていました。アルバムと違ってその中のカオスは見るたびに違う印象を与えてくれたのを覚えています。では

［表紙：アニューラ・エクリプス 2007］

なぜそんなに面白かったのか？　子供の私にはわかりませんでしたが、今から考えるとあの箱の中身は、本来的な写真の使命とも言える、記録する、分類する、位置づけるという役割から解放された、ただの世界の断片の集積であって、写真の不思議さとその都度得られる発見の楽しみなどが、まさに、その箱に詰まっていたからかもしれません。案外私の脱写真的行為と言われる部分はそんな既存の写真の本来性から外れたものに対する直感的な興味が源泉となっているのかもしれないのです。

自分の写真を棚に上げて言うのも何ですが、私にとって写真は古ければ古いほど魅力的です。シャッタースピードが遅く、身構えて撮影された19世紀の肖像写真のモデルの眼差しには独特の魅力があります。己が写真化されることに対する戸惑い？それとも未知な現象に対する興味？　それらの肖像写真には、その時間やモデルの人格までもが内包されているようです。

それは現代の瞬時になんでも捉える機動力のあるカメラと、自分の顔を予想されたイメージどおりに写真に変換することにたけている我々と、かけ離れた遠い出来事のように思えます。実は私はいま「はたして私たちは写真の発明以前に遡れるか？そんな事件を写真というメディアを使いながらも実現出来るだろうか？」というSF小説じみたことに興味をもっているのです。

ー作品のアイディアは、一体どのような時に思いつくのでしょうか。

私の場合、アイディアを思いついた＜その時＞よりもそのアイディアをアタマの片隅に捕獲？したまま熟成させるその熟成期間の方が重要です。時間の中でアイディアは成長、変形、ときには突然変異を起こします。4、5年熟成が必要なケースもあります。そしてある時、現実化できるという確信が得られるのです。そうなると具体的な作業に入ります。たとえば「Transvest」は当初、昆虫の擬態への興味がどんどん膨らんでいき、それがテーマとなって考えを巡らせていたのです。そのうち擬態がファッションへ、昆虫が人間へと変化していきました。真珠のシリーズではカメラの中にビー玉をいれて撮影していますが、蚤の市で手に入れた革張りの箱形カメラをいじくり回していた時、宝石箱のように箱の中に何かを入れてみたくなったのがきっかけですね。

ーオノデラさんの作品には、どうして浮かんでいるものが多いのでしょうか。

私たちは重力のある世界にいるので、つい＜浮いている＞ところに目が行ってしまうと思うのですが、他の意味でも私の作品はすべて浮いているんです。視覚的に被写体が浮かんでいない作品でもそれらは地盤に足をつけずに浮いているような、そうとも言える内容を持っています。そもそも確固とした地盤と

11番目の指 2006-2010

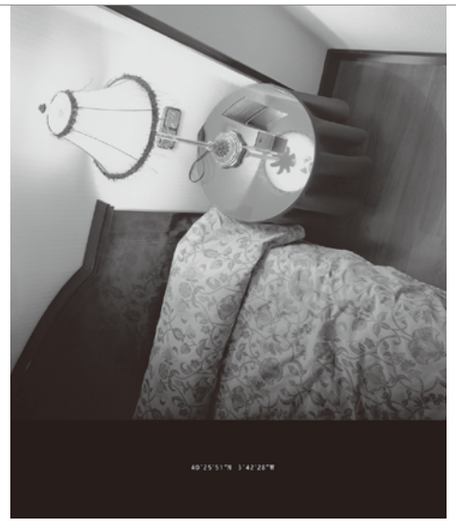
真珠の作り方 2000-2001

言われているものだってひとつのフィクションのようなものではないかと考えれば、足をつけていてもつけていなくてもどちらでも浮遊しているようなものです。ただ視覚的に違和感や開放感を感じさせる浮遊は、鑑賞者にとっては作品と自由に対峙するとっかかり、牽引役となっているかもしれません。なんか変だな、という感じでじっと見入ってもらえる。そうすると色々と見えてくるのです。

ーカメラという機械の仕組みにも興味があったのでしょうか。

最初の頃はライカM3を使って写真を撮っていました。すべて手動操作のカメラなのでシャッタースピードと絞りの関係が初心者にもよく理解できました。最初から現像もプリントも自身で行いましたので、製作の中でカメラや引き延ばし機という装置がどのように関わるかがとても明快でした。それで私にとってカメラはただの機械であって、それは常に撮影者と被写体の間にあり、光学的に枠内の事象を捉え、化学的に定着させるものと認識していました。我々はカメラで捉えたものが「現実」に近く、描写力にもすぐれていると思わされていますが、決してそんなことはありません。人間が肉眼で見たものは、むしろ、そう、デッサンなどで描写した方が「わたし=主観が見た現実」に近いものを再現できるように思えます。カメラにはレンズの特性やフィルムの感度などの規制が多く、なかなか見た目どおりに撮れないことは誰もが体験していることでしょう。それを技術で現実のように仕上げるのが一般的にプロの仕事とも言えますが、私はそのようなプロにはならずに、カメラで捉えたものはカメラの前にあったものとイコールではないというのが前提となって、

古着のポートレイト 1994-1997



オルフェウスの下方へ 1ー失踪者の後を追ってー 2006

写真がその場所と時間からも乖離していくままに任せ…つまり受動的ともいえる姿勢を写真行為としているのです。

ープリントで一番大切にしていることは何ですか。

暗室でのプリントは化学的な方法に従いますが、その際にたとえば非常識な手段やタブーと言われるプロセスなどをあえて独自に考えて自分の技術として取り入れていますから、それが表現効果となっています。暗室の道具も自分で手作りします。私にとって「イメージ=画像」はプリントとして物質化した時に「写真」になります。どのように物質化するかは、油絵などと比べるとマチエール（素材によってつくり出される効果）がほとんどないのが写真ですが、紙である限りその微細な表面にもマチエールは確かにあるのです。その仕上げまでが私の仕事です。イメージ、ましてやデジタルイメージというのはそれだけでは存在しない、すぐ消えてしまう幻のようなものではないでしょうか。

ーフランスで制作活動をされるメリットは何でしょうか。

フランスはアーティストにとって活動しやすい環境が整っています。フランス各地どこでもアートセンターがあり、さらに文化省や地方現代美術基金が作品のコレクションをし展覧会も行います。現代美術や写真の様々なフェスティバルが企画され、作品発表の場は非常に多い。また、アーティストという立場も職業的に確立されており、アーティスト組合に加入すれば、公営アトリエも社会保障も得られますし、制作を助ける公的支援制度も数多くあります。いつも驚くのは外国人でもこういった全ての支援をまったく同様に受けられることです。　［2010年5月 インタヴュー］

2F 2階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料　三越カード割引　アトレカード割引

7月27日(火) → 9月26日(日)

INTO THE LABYRINTH OF PHOTOGRAPHY
オノデラユキ 写真の迷宮（ラビリンス）へ

□ 一般 700(560)円　□ 学生 600(480)円　□ 中高生・65歳以上 500(400)円

(　)は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料　※東京都写真美術館友の会会員は無料　※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会
□ 特別協賛：キヤノン株式会社　□ 協賛：ライオン株式会社／清水建設株式会社／大日本印刷株式会社

オノデラユキは、1991年独学で身につけた写真で第1回写真新世紀展優秀賞を受賞。イメージを重ねた幻視的な作品は「謎めいていることは貴重である」と評価され、その本質は1993年に拠点をパリに移してからさらに力強く磨かれていきました。そして、創意溢れるシリーズ作品を次々と発表し、2003年に写真集『カメラキメラ』で第28回木村伊兵衛写真賞、2006年にはフランスで最も権威ある写真賞「ニエプス賞」に輝きました。

オノデラ作品の魅力は、「写真」という一般概念に収まりきらないところにあります。それは写真表現の可能性に果敢に挑戦していく、彼女の尽きない探求心に支えられています。ある時はカメラに細工を施し、ある時はコラージュによって、コンピュータを使用したり、手採色を施したりするなど、シャッターを押すまでに行われる作り込みや、独自のプリントは、まさに造形作家の仕事です。

本展では初期代表作に、東京都写真美術館の新収蔵作品「Transvest」、「12 speed」を加えた9シリーズ約60点を展示。日常の風景を捉えながら固定観念を覆す視覚世界は、独自のユーモアと都会的なセンスで観る者を惹きつけ、写真の迷宮へと誘います。

アーティストトーク（作家による作品解説）
日 時：7月30日（金）14:00～　会 場：2階展示室
※本展覧会の半券（当日有効）をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

オノデラユキのスライドレクチャー<初公開！ アートな写真のひみつ>
日 時：9月4日（土）14:00～　定員：70名　会 場：1階創作室（アトリエ）
※当日10時より当館1階受付にて整理券を配布します。

担当学芸員によるフロアレクチャー　第1・3金曜日 14:00～
※本展覧会の半券（当日有効）をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

Transvest 2002-

2F　2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引　三越カード割引　アトレカード割引

5月15日(土)➔7月19日(月祝)

古屋誠一　メモワール.「愛の復讐、共に離れて…」

□ 一般 800(640)円　□ 学生 700(560)円　□ 中高生・65歳以上　600(480)円

(　)は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料　※第3水曜日は65歳以上無料

□主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／産経新聞社
□協力：オーストリア大使館／IZU PHOTO MUSEUM／株式会社アイワード／フォト・ギャラリー・インターナショナル
□後援：サンケイスポーツ／夕刊フジ／フジサンケイビジネスアイ／iza!／SANKEI EXPRESS

1985年に東ベルリンで自ら命を絶った妻クリスティーネを撮影した写真集『Mémoires(メモワール)』で国際的に高い評価を得た古屋誠一。本展は、20年あまり発表し続けている「メモワール」シリーズの集大成となる展覧会です。
事実と正面から向き合い、時間と空間を超えて生き続ける記憶を、蘇生させ編み直してきた古屋の表現の世界。未発表の自家版写真集も含め全124点で展覧します。

グラーツ、2001

担当学芸員によるフロアレクチャー　第1・3金曜日 14:00～
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

B1F　地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引　三越カード割引　アトレカード割引

6月12日(土)➔8月8日(日)

世界報道写真展2010

□ 一般 700(560)円　□ 学生 600(480)円　□ 中高生・65歳以上　400(320)円

(　)は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料　※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：世界報道写真財団／朝日新聞社　□ 共催：東京都写真美術館
□ 協賛：キヤノンマーケティングジャパン株式会社／ティエヌティエクスプレス株式会社

2009年世界報道写真大賞　ピエトロ・マストゥルツォ／イタリア

50年以上の歴史を誇る、オランダ・アムステルダムの「世界報道写真財団」が、毎年世界中の報道カメラマンを対象に実施する「世界報道写真コンテスト」の受賞作品約200点をご紹介します。カメラマンが時に自らの命をかけて撮影した1枚の写真には、瞬時に映像が世界を駆けめぐる現代において、ますます心に響く強さがあります。世界の現状を伝える写真の力をご覧ください。

◎お問い合せ≫朝日新聞社事業本部文化事業部　03-5540-7450

第3回フォトドキュメンタリー・ワークショップ クィック・ヒット・エッセイの一般公開レヴュー
日 時：7 月19日(月・祝)15:00～18:00(受付は14:30～)
会場：1階創作室(アトリエ)　定員：50名(先着順・自由席)　参加費：無料
※本展の半券をご提示ください(会期中消印有効) ※詳細はホームページでご確認ください。

3F　3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料　三越カード割引　アトレカード割引

5月15日(土)➔7月25日(日)

侍と私 ーポートレイトが語る初期写真ー

□ 一般 500(400)円　□ 学生 400(320)円　□ 中高生・65歳以上　250(200)円

(　)は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料　※東京都写真美術館友の会会員は無料　※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館　□ 協賛：凸版印刷株式会社　□ 協力：講談社

1839年にフランスで写真が発表されて以降、写真は多種多様に人物を捉えてきました。その手段や目的はさまざまですが、人物を写真にとどめるという行為は、それぞれの時代の要求に応えながら変容し、その現象は現代の私たちにも引き継がれています。
幕末に来日した外国人写真師たちは、肖像制作の文化があまりなかった日本に、肖像写真を紹介します。明日をも知れぬ時代を生きていた侍たちは、自らの姿を残すため写場(スタジオ)へと向かいました。写真は日本の習慣・文化にとけ込みながら庶民に広まり、やがて、天皇や貴族も自らの姿を残します。一方、西欧では王や貴族など一部の人々のものだった肖像制作が、写真の登場によって民衆へと広まりました。
本展では、当館コレクションの写真作品と、特別出品の油彩画やカメラなど216点を展示。初期写真の豊かな世界をご紹介します。

ナダール　≪題不詳(第二回遣欧使節 甲冑姿の河津伊豆守立像)≫
鶏卵紙　1864年(後年のプリント)

担当学芸員によるフロアレクチャー　第2・4金曜日 16:00～
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

公式ガイドブック「肖像 ポートレイト写真の180年」
学芸員によるテキストと、「侍と私」展、「私をみて!」展、「20世紀の人間像」展より図版187点を掲載。

講談社刊　定価1,890円(税込)
※当館ミュージアムショップ(03-3280-3279)

B1F　地下1階展示室　8月14日(土)➔8月29日(日)

「おんな」 ー立ち止まらない女性たちー
日本写真家協会創立60周年記念展

□一般 700円　□学生・65歳以上 400円　□高校生以下無料

日本写真家協会は、写真を通して記録と表現の両面から現代を俯瞰する多くの企画展を開催してきました。本展は創立60周年を記念し、日本の「おんな」をテーマに、女性のさまざまな姿を通して、戦後から現代までの女性史をたどります。

◎お問い合せ≫日本写真家協会　03-3265-7451

木村伊兵衛　農村の娘(秋田県)　1953年

3F 3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料　三越カード割引　アトレカード割引

7月31日㊏ ➔ 10月3日㊐

私を見て！ ーヌードのポートレイトー

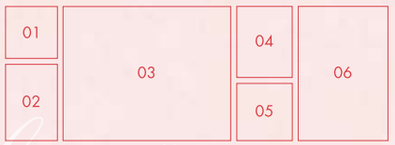
Look at me! Nude portrait photographs

□ 一般 500(400)円　□ 学生 400(320)円　□ 中高生･65歳以上 250(200)円

(　)は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料　※東京都写真美術館友の会会員は無料　※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館　□ 協賛：凸版印刷株式会社　□ 協力：講談社

本展では東京都写真美術館の2万5千点余におよぶコレクションから選りすぐられた作品を基に構成し、ポートレイトのなかでも主にヌード写真を取り上げます。
ヌード写真には、写されている人間を「個人」として写しているものから、オブジェなどと同じように、美しい曲線を持つ物体として捉えているものまで、多様な作品が存在しています。
ヌードの表現も他の写真表現と同じように、19世紀のビクトリアリズムの時代には、古典絵画を手本とした構図のヌード、そして20世紀に入ると写真本来の機能を生かしたようなモダニズム的なヌードと、表現の方向性が時代によって変化しています。そして被写体もモデルやダンサーなどから、恋人、家族から自分自身を捉えたものなど、対象も広がっていきます。
社会や風俗、思想と様々な分野と絡み合う表現を取り上げ、その表現の違いから、それぞれの時代の人々を表象するポートレイト。単なるポートレイトではなく、敢えて服を脱いだ人を撮影することで、写真家達は、どのようにそれぞれ時代を捉えようとしたのでしょうか。これらの表現を通して、その時代の社会が持つ問題や意識の相違などが浮かび上がってくることでしょう。



01. 北緯28°26′　立木 義浩　1970年
02. 「母子像」より　大竹 省二　1972-1975年
03. ストーリーヴィル、ニューオリンズの赤線地帯　E･J･ベロック　1912年
04. 裸婦座像　吉川 富三　1931年
05. FIRST BORN #19　有田 泰而　1973年
06. 「ヌード」より　中村 立行　1956年

[主な出品作家]
秋山 庄太郎／荒木 経惟／小関 庄太郎／緑川 洋一／有田 泰而／大竹 省二／篠山 紀信／立木 義浩／吉川 富三／石井 幸之助／深瀬 昌久／淵上 白陽／細江 英公／小川 月舟／大辻 清司／サリー･マン／フランツ･ロー／ウンボ／ビル･ブランド／エメット･ゴーウィン／E･J･ベロック／ロベール･ドマシー／クラレンス･H･ホワイト／ユージン･フランクなど

記念講演会　講師：高階 秀爾
日時：8月29日(日) 15:00～
会場：1階ホール　定員：190名
受付：当日10時より当館1階受付にて整理券を配布します。
※14時30分より整理番号順入場、自由席。

担当学芸員によるフロアレクチャー　第2･4金曜日 16:00～
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

Look at me! Nude portrait photographs

3F 3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料　三越カード割引　アトレカード割引

10月9日土 ➔ 12月5日日

20世紀の人間像 ーすべての写真はポートレイトであるー

□ 一般 500(400)円　□ 学生 400(320)円　□ 中高生・65歳以上 250(200)円

(　)は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料　※東京都写真美術館友の会会員は無料　※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館　□ 協賛：凸版印刷株式会社　□ 協力：講談社

写真史上の有名作品からあまり目に触れる機会のない作品まで、時代を超えた魅力を放つ20世紀のポートレイト写真を中心に「人間像」というキーワードで当館の豊富なコレクションをご紹介します。
スタジオポートレイト、シュルレアリズム表現、社会派ドキュメンタリー、都市のスナップショット、広告ファッション写真、個人的な私写真表現など、多様なスタイルのポートレイト作品は被写体の個性を伝えるとともに、時代の感性や美意識、理想と現実を写し出します。単に人間を被写体にした写真だけが人間像=ポートレイトではありません。一見ポートレイトに見えないような写真作品、たとえば風景や事物に写真家の内面や人間心理を反映させた写真もまたポートレイト表現として見ることができるのではないでしょうか。本展はポートレイト写真の可能性や人間をテーマとする写真の多様性と戯れながら、その魅力を探っていきます。

担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 16:00〜
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

福田勝治　《心の小窓》　1949年

今 道子　《「EAT」より 鮪と小鯵と柘榴》　1990年

2F 2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引　三越カード割引　アトレカード割引

10月2日土 ➔ 12月5日日

ラヴズ・ボディ 生と性を巡る表現

love's body, art in the age of AIDS

□ 一般 800(640)円　□ 学生 700(560)円　□ 中高生・65歳以上 600(480)円

(　)は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料　※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／朝日新聞社
□ 助成：芸術文化振興基金／財団法人石橋財団／財団法人アサヒビール芸術文化財団／Asian Cultural Council
□ 協賛：株式会社ニコン／株式会社ニコンイメージングジャパン／株式会社資生堂／凸版印刷株式会社
□ 協力：アサヒビール株式会社／京都精華大学

東京都写真美術館では1998年11月から99年1月に「ラヴズ・ボディ　ヌード写真の近現代」と題した展覧会を開催し、好評を博しました。ヌード写真をエロスや性の表象としてだけではなく、関係性や主体性などの視線の力学によって捉え直し、新たな身体の表象の可能性や意味を考える展覧会でした。「ラヴズ・ボディ　生と性を巡る表現」は、そうした現代の身体表象から導き出された問題をより鮮明にしようとする試みです。
現在、世界が共有する問題としてエイズがあります。1980年代後半から90年代前半、エイズは単なる不治の病として多くのアーティストの命を奪っただけではなく、「エイズ」を巡ってあぶり出された社会的偏見や差別、社会への疑問が、写真・美術のあり方を根本的に問い直す契機となりました。
エイズを抱えた多くのアーティストがエイズに向き合い制作することで、この「社会的病」を自分たちの問題として捉え、エイズがわたしたちに問いかける様々な作品が生まれました。そして今も、セクシュアリティの変容や他者表象、身体表象、アートと政治の問題など、新たな表現の可能性を思索しています。この展覧会は美術や写真のある側面に大きな変化を与えるほどに影響力を持つそうした作品の意味を検証し、問い直す試みです。

[出品予定アーティスト]
A.A.ブロンソン／ピーター・フジャー／フェリックス・ゴンザレス=トレス／スニル・グプタ／エルベ・ギベール／ウィリアム・ヤン／デヴィッド・ヴォイナロビッチ／ハスラー・アキラ　張由紀夫

デヴィッド・ヴォイナロヴィッチ　《Untitled (Falling Buffalo)》　1988-89年
Courtesy of The Estate of David Wojnarowicz and P.P.O.W Gallery, New York NY

フェリックス・ゴンザレス=トレス　《無題(自然史)》　1990年(一部)
©1991 The Felix Gonzalez-Torres Foundation.

B1F 地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引　三越カード割引　アトレカード割引

9月4日土 ➔ 10月11日月祝

黒澤明生誕100年記念画コンテ展 映画に捧ぐ

□ 一般 1,000(800)円　□ 学生 800(640)円　□ 中高生・65歳以上 700(560)円

(　)は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料　※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：ホリプロ／角川書店　□ 共催：東京都写真美術館
□ 協賛：黒澤プロダクション／角川映画／東宝／松竹／ワーナー・ホーム・ビデオ／「海は見ていた」製作委員会
□ 後援：文化庁／日本映画製作者連盟　□ 企画・所蔵：ホリプロ

画コンテを描く時、随分、いろんな事を考える。その場所のセッティング、その場面に出る人物の心理や感情、その人達の動き。それを掴まえるキャメラ・アングル、光線の状態、衣装や小道具、そう云ういろんな事を具体的に考えないと、その場面を画には描けない。
いや、それを考えるために画コンテを描くのだ、と云った方がいいかも知れない。
私は、そうやって、映画の一つ一つの場面のイメージを眼に見える様にかため、ふくらませ、しっかり掴んで、それから映画の撮影に臨む。
しかし、どうもこの作業は、シナリオを書く時から、私の頭の中で始まっているらしく、書き損なった原稿用紙の裏にいろんな画が描いてあるのを時々見つけることがある。

黒澤　明

没後10年以上を経た今なお、映画界に燦然とその名前が輝き続ける巨匠、黒澤明。青年期には画家を志し、18歳で二科展入選を果たすほどの腕前でありながら、映画製作の道を選ぶと同時に「二兎を追う者は一兎も得ず」と潔く筆を折り、すべての絵画作品を焼却。それから半世紀以上を経て、映画『影武者』を製作する中で再び絵筆をとり、作品にかける熱い思いを丹念に描きあげたのが「画コンテ(=絵コンテ)」でした。以来、画コンテは黒澤にとって映画製作に欠かせない重要な創作過程の一つとなり、生涯2,000点を超す作品を残しました。
完成された映画と見比べると、その人物描写、衣装、装置、照明、構図がほぼそのままに再現されていることに驚かされます。緻密に描きあげられた画コンテの数々には、「映画の1コマ1コマが1枚の写真のように美しい」と評された黒澤映画の原点を見ることができます。
緻密で芸術的な黒澤の画コンテは、映画界のみならず美術界からも熱い注目を集めており、昨年のパリ市立プチパレ美術館、トルコ共和国イスタンブール市のペラ美術館をはじめ、世界の由緒ある美術館で画コンテ展覧会が開催されました。本展では、2,000点の画コンテから厳選した約140作品に加え、映画『夢』でゴッホ役を演じたマーティン・スコセッシ氏が所蔵する画コンテ10作品(予定)を日本で初公開。躍動感溢れる作品の数々を通じて、その芸術性の高さとともに、天才と呼ばれた黒澤がいかに緻密に準備を重ね、丁寧に真摯に映画創りと向き合っていたかをご覧ください。

「影武者」武田屋形・御裏方・一室

「影武者」設楽原・決戦場

「乱」草原・巻狩の秀虎

「夢」桃畑・段畑・絢爛豪華な雛人形達の舞

「影武者」鳳来寺・医王院の武田信玄

黒澤　明 (1910-1998) Akira Kurosawa

東京生まれ。1936年にPCL(東宝の前身)に入社。以来、62年間にわたり映画作りに傾倒し、世界に数多くの功績を残す。43年「姿三四郎」で監督デビュー。主な作品に50年「羅生門」(ベネチア国際映画祭 金獅子賞)、54年「七人の侍」(ベネチア国際映画祭　銀獅子賞)、80年「影武者」(カンヌ国際映画祭　パルム・ドール賞)など。85年に文化勲章受賞、90年には米アカデミー賞 特別名誉賞受賞。

©Kurosawa Production Inc. Licensed exclusively by HoriPro Inc.

1F 1階ホール Hall Cinema Information

友の会割引　三越カード割引　アトレカード割引

東京都写真美術館で観る映画シリーズ

Film 「ハーツ・アンド・マインズ／ベトナム戦争の真実」「ウィンター・ソルジャー／ベトナム帰還兵の告白」

ベトナム戦争勃発から50年、映画で見る戦争の真実。

映画史に燦然と輝く伝説の2大傑作ドキュメンタリーがついに日本初公開。ベトナム戦争の原因、歴史、悲劇、そして無意味さをリアルに描き、反戦運動を盛り上げて戦争を終結させるきっかけにもなったといわれるドキュメンタリー映画「ハーツ・アンド・マインズ／ベトナム戦争の真実」、あまりに衝撃的な内容から全米マスコミが黙殺した帰還兵たちの驚くべき戦争犯罪の告白を暴露した「ウィンター・ソルジャー／ベトナム帰還兵の告白」の2本を上映。

EDEN ENTERTAINMENT INC.　03-5355-5792

「ハーツ・アンド・マインズ／ベトナム戦争の真実」より

○上映スケジュール：6月19日(土)～7月16日(金)
○上映時間：《定員入替制》
※詳細はホームページをご確認ください。
○料　　金：[当日券／1作品]一般1,500円／学生1,300円
／シニア・障害者手帳をお持ちの方1,000円

Film Series Vol.51 「地球交響曲第七番」（ガイアシンフォニー No.7）

3人の賢人による、地球の未来へのメッセージ。

シリーズ第7弾のテーマは、「全ての生命が潔く健やかに生き続けるために」。伝統医療と西洋近代医学を統合する「統合医療」の世界的第一人者アンドルー・ワイル、自転車競技「ツール・ド・フランス」にヨーロッパ出身以外の選手で初めてチャンピオンとなったグレッグ・レモン、日本人として初めて人力と犬ぞりによる北極海横断に成功した、環境教育活動家高野孝子の3人が、ガイアの自発的治癒力について語ります。

龍村仁事務所　050-5527-4578

©Jin Tatsumura Office, Inc.

○上映スケジュール：7月17日(土)～8月27日(金)
○上映時間：10:30／13:15／16:00／18:40《定員入替制》
8／10～8／20まで地球交響曲第一番～第七番一挙上映!
※詳細はホームページをご確認ください。
○料　　金：一般 1,800円／シニア・学生 1,500円
小・中学生・障害者手帳をお持ちの方1,000円

カフェ『シャンブル クレール』 1F 2F

営業時間【1階】10:00-20:00(日曜日は18:00まで)
【2階】10:00-18:00(8月31日まで営業)
◎お問い合せ：Tel.03-5798-2218

ベルギーで定番のスイーツです。濃厚なバニラアイスにホットチョコレートをかけて召し上がれ。

ダム ブランシュ 600円(税込)

ミュージアムショップ『ナディッフ バイテン』 1F

営業時間 10:00-18:00(木・金は20:00、土は18:30)
◎お問い合せ：Tel.03-3280-3279

ボタンを押すと、LEDライトが光ると同時にカシャッと鳴る、小さなカメラ型のキーホルダーです。※写真は撮れません

ノイジーカメラキーホルダー
スタンダードカメラ/クラシックカメラ 各472円(税込)

友の会 Support

展覧会のご招待・割引、上映映画の割引をはじめ、たくさんの特典をご用意している他、関連施設での割引もございます。皆さまのへのご入会を心よりお待ちしております。

年会費	個人会員 2,000円 家族会員(同伴者1名まで)　3,000円 シルバー会員(65歳以上の方)　1,000円

※受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
※会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。
※詳細は当美術館までお問い合せください。　Tel.03-3280-0099(開館時間中)

友の会特典	特典内容
収蔵展・映像展	無料　※会期中は何度でもご観覧いただけます ※家族会員の方は、同伴者1名まで無料
企画展・誘致展	割引　※御利用いただけない場合もございます
ミュージアムショップ	5%引き　※一部商品は除きます
その他	※ニュース「eyes」送付 ※1階ホールの割引(上映作品により異なります) ※ロゴス渋谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)など ※WINE MARKET PARTY恵比寿店でご購入金額から5%割引(一部商品は除きます、他の優待サービスとの併用不可)

支援会員 Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

特別賛助会員
キヤノン株式会社
株式会社資生堂

特別支援会員
株式会社キタムラ
大日本印刷株式会社
東京電力株式会社
凸版印刷株式会社
株式会社ニコン
富士フイルム株式会社
株式会社リコー

支援会員
株式会社I&S BBDO
株式会社アイデム
株式会社葵プロモーション
株式会社アサツー ディ・ケイ
旭化成株式会社
朝日新聞社
朝日生命保険相互会社
アサヒビール株式会社
朝日放送株式会社
株式会社アシェット婦人画報社
アップルジャパン株式会社
株式会社アートよみうり
株式会社アマナホールディングス
イー・ギャランティ株式会社
株式会社岩波書店
株式会社潮出版社
内田写真株式会社
株式会社エース企画
NECディスプレイソリューションズ株式会社
株式会社NHKアート
株式会社NHKエデュケーショナル
株式会社NHKエンタープライズ
株式会社NHKグローバルメディアサービス
株式会社NHK出版
株式会社NHKビジネスクリエイト
株式会社NHKプロモーション
株式会社NHKメディアテクノロジー
株式会社NTTデータ
株式会社NTTドコモ
NTT都市開発株式会社
株式会社エフエム東京
エプソン販売株式会社
エルメス財団
株式会社大塚商会
オムロン株式会社
オリックス株式会社
オリンパスイメージング株式会社
株式会社オンワードホールディングス
科研製薬株式会社
カシオ計算機株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社角川グループホールディングス
カトーレック株式会社
カルビス株式会社
株式会社カンバセーション アンド カムパニー
株式会社キクチ科学研究所
キッコーマン株式会社
株式会社紀伊國屋書店
キハラ株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
ギャラリー小柳
株式会社キューコミュニケーションズ
共同印刷株式会社
一般社団法人共同通信社
協和発酵キリン株式会社
キリンホールディングス株式会社
株式会社弘亜社
株式会社講談社
株式会社光文社
株式会社国書刊行会
株式会社コスモスインターナショナル
株式会社コーセー
コダック株式会社
株式会社ザ・アール
サッポロホールディングス株式会社
産経新聞社
サントリーホールディングス株式会社
株式会社サンローズィ
株式会社ジェイアール東日本企画
ジェイティービー印刷株式会社
株式会社シグマ
株式会社実業之日本社
清水建設株式会社
株式会社写真弘社
写真の学校／東京写真学園
シャネル株式会社
株式会社集英社
株式会社主婦と生活社
株式会社主婦の友社
株式会社小学館
松竹株式会社
信越化学工業株式会社
株式会社新潮社
株式会社スタジオアリス
有限会社スタジオエムジー
株式会社スタジオジブリ
住友化学株式会社
株式会社生活の友社
セイコーホールディングス株式会社
株式会社青春出版社
積水ハウス株式会社
株式会社セーフティ
セントラル警備保障株式会社
全日本空輸株式会社
ソニー株式会社
第一三共株式会社
第一法規株式会社
ダイキン工業株式会社
株式会社ダイケングループ
大成建設株式会社
有限会社タカ・イシイギャラリー
株式会社宝島社
株式会社竹中工務店
株式会社タムロン
株式会社淡交社
株式会社丹青社
株式会社中央公論新社
中外製薬株式会社
株式会社ティー・ビー・オー
株式会社TBSテレビ
株式会社テー・オー・ダブリュー
株式会社テレビ朝日
株式会社テレビ東京
電源開発株式会社
株式会社電通
東亜建設工業株式会社
東京ガス株式会社
東京急行電鉄株式会社
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
株式会社東京スタデオ
東京造形大学
東京綜合写真専門学校
東京テアトル株式会社
東京都競馬株式会社
株式会社東京ドーム
株式会社東京ニュース通信社
株式会社東京美術倶楽部
東京メトロポリタンテレビジョン株式会社
株式会社東芝
東宝株式会社
株式会社東北新社
東洋熱工業株式会社
株式会社徳間書店
図書印刷株式会社
戸田建設株式会社
トヨタ自動車株式会社
日外アソシエーツ株式会社
日油株式会社
日活株式会社
株式会社日経BP
日産自動車株式会社
株式会社日本カメラ社
日本空港ビルデング株式会社
日本経済新聞社
日本興亜損害保険株式会社
株式会社日本廣告社
社団法人日本広告写真家協会
日本写真印刷株式会社
社団法人日本写真家協会
社団法人日本写真協会
日本写真芸術専門学校
日本写真作家協会
社団法人日本写真文化協会
日本大学芸術学部
日本たばこ産業株式会社
日本テレビ放送網株式会社
日本ハム株式会社
日本ヒューレット・パッカード株式会社
株式会社ニッポン放送
日本ロレックス株式会社
株式会社ニューアートディフュージョン
株式会社博報堂
株式会社パス・コミュニケーションズ
パナソニック株式会社
株式会社林原生物化学研究所
ぴあ株式会社
北海道 写真の町東川町
東日本旅客鉄道株式会社
光写真印刷株式会社
株式会社美術出版社
株式会社日立製作所
株式会社日立物流
株式会社ビックカメラ
株式会社ビデオプロモーション
ヒノキ新薬株式会社
株式会社ピラミッドフィルム
株式会社ファーストリテイリング
富国生命保険相互会社
富士重工業株式会社(スバル)
富士ゼロックス株式会社
株式会社フジテレビジョン
富士電機システムズ株式会社
株式会社扶桑社
株式会社双葉社
株式会社プラザクリエイト
株式会社ブリヂストン
株式会社プリンスホテル
株式会社フレームマン
株式会社文藝春秋
株式会社ベネッセホールディングス
北海道新聞社
株式会社ホテルオークラ
HOYA株式会社 PENTAXｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ･ｼｽﾃﾑ事業部
株式会社堀内カラー
本田技研工業株式会社
毎日新聞社
株式会社マガジンハウス
マミヤ・デジタル・イメージング株式会社
丸善株式会社
株式会社マンダム
三井倉庫株式会社
三井不動産株式会社
株式会社三越
三菱地所株式会社
三菱製紙株式会社
武蔵大学
森ビル株式会社
モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社
株式会社ヤナセ
ヤマトロジスティクス株式会社
ユサコ株式会社
ユニリーバ・ジャパン
横河電機株式会社
株式会社吉野工業所
株式会社ヨドバシカメラ
読売新聞社
ライオン株式会社
ライカカメラジャパン株式会社
リシュモン ジャパン株式会社 モンブラン
株式会社ワコール

(平成22年5月現在・五十音順)